

しずおか平和の風

No. 3
 2015年5月22日
 発行
 静岡市
 平和委員会
 静岡市葵区鷹匠
 1-5-8
 TEL 253-1854
 FAX 252-0785

辺野古NO! 沖縄県民大会

5月17日、沖縄セルラースタジアム那覇。炎天の中、シンボルカラーのブルーのTシャツやタオル、帽子を身につけた3万5千の人が、内外野スタンドを埋め尽くしました。



↑35,000人で埋まったセルラースタジアム那覇

大会は普天間高校1年、宮城りなさんの司会で始まり各共同代表のあいさつ、そして登壇した翁長知事は、「私は多くの県民の負託を受けた知事として、

受け取られたこと。沖縄は自ら基地を提供したことは一度もない」と述べながら、世界一危険な普天間基地の解決策を、あくまで辺野古新基地に固執する政府を批判しました。そして「新辺

ト基地反対のたたかいを進める、高江の住民たちを訪問し交流してきました。映画『標的の村』で知られる現地では、集落を取り囲むようにオスプレイが離着陸する基地を造ろうという計画に、住民がゲート前で監視テントを張り、工事を阻止し続けています。

プ会長）は、基金が2億1千100万に達したことを報告。寄せられた1600件の基金の7割が本土からの送金であること。「オー

午後6時、名護市の辺野古漁港近くのヘリ基地反対協議会のテントを訪れて、静岡市平和委員会の仲間たちから預かった、基地のフェンスに縛り付けるバナナ（横断幕）を手渡ししながら、励まし励まされてきました。

ル沖縄がオールジャパンに変化していることを実感している。新辺野古基地建設阻止をオールジャパンの力で実現しよう」と訴えました。

キャンパスシュワブのゲート前では、大勢の仲間がテントを張り連日座り込みを行って新基地建設阻止を訴えています。

参加者は入場の時配られた「辺野古新基地NO」「屈しない」と書いたメッセージボードを掲げ、決意をアピールしました。

海上で工事を監視する反対住民の船舶を襲い、暴力をふるい、プレジャーボートを転覆させるなど、海上保安庁の無法に県民の怒りの声は高まっています。

本土からの支援・連帯は沖縄県民のたたかいの大きな励ましとなっています。

野古基地の建設を阻止することが普天間基地を解決する唯一の政策です。」と訴えると参加者は立ち上がって大きな拍手で応えました。

また、辺野古基金共同代表、呉屋守将氏（金秀グループ）

高江にて
18日には北部のヘリパ

さらに「沖縄の原点は普天間基地が戦後米軍に強制

また、辺野古基金共同代表、呉屋守将氏（金秀グループ）

18日には北部のヘリパ

三輪矩正

平和行進 ブログ便り ～松永洋子～



↑5月21日アップ写真・松永洋子さん(右端)。ブログのアドレスは <http://ameblo.jp/heiwakousin/> スマホから毎日アップされています。

5月6日 国民平和行進スタートの夢の島。物凄く大勢の行進者が集まり、思いを行動に、思いはひとつ。凄いパワーでした。＼(^-^)/

5月12日 1977年9月27日横浜青葉区。閑静な住宅街に米軍機が墜落してママと可愛い子供さんが2人亡くなりました。とても悲しい現場ですが今は公園になっていました。横に、焼け焦げた電柱があったそうですがすぐ、撤去されたそうです。皆さん、語り継ぎましょう。

5月14日 我々と共に神奈川県内を通し行進している、フィリピンミンダナオ人民平和運動家、VALTIMORE FENISさん・32歳が米軍横須賀基地ゲート前でマイクを使い大きな声で、これ以上世界に戦争を撒き散らさないでくれと英語でスピーチ。物凄い迫力で米兵や警察、道行く人がみっていました。

5月20日 東富士演習場、駒門駐屯地。何年か前より確実に戦車、装甲車、大型車、ジープ、数が多くなっていました。これらを使い若い自衛隊員を戦地に送り出すのはヤメてください。どこの国の人も殺したくないし、若者自衛隊員も殺されたくない。それをしようとしている安倍自民党を選んだ国民にも責任があると思います。

松永洋子さん（65歳・静岡市葵区）は東京→広島、初通し行進者です。



70年目の夏、私たちは何をこそ考えなくてはならないのでしょうか。
—被爆者（長崎）
青山 智佳子さん、父母を語る。

父が語らなかつた事

今年5月に鈴木様からお手紙を頂きまして、父の思いなどを思い巡らしていたとき、テレビで巨大潜水艦「伊400」の映像を見て、初めて父が造船所に勤務していたことを実感しました。約20年前、静岡から8月9日、長崎の平和祈念大会に松本光子さんと参加しました。宿泊ホテルから徒歩10分

道に進み、戦後の国の復興に全力を傾けたのではないかと思います。華々しく進水して行った多くの船、幾多の船とともに帰らなかつた多くの人たちの、大きく手を振る笑顔が、青く美しい長崎の港と共に、ピカの灰色の雲を見たと言った父の瞳の底に深く映っていたように今、思います。

母

母は終戦から14年後、42歳で亡くなりました。ある日、新聞を切り抜いて襖に子供の目の高さに貼りました。『原爆許すまじ』という歌だと教えてくれました。両親はよく新聞の写真を見せながら、私たち四人の兄弟に説明してくれていました。

被爆時、一歳十か月だった青山さんは、被爆者手帳を取得しています。父上、上野兼雄さんから直接原爆についてお聞きしたのは50歳ころになってからのこと。上野さんが亡くなられた後に、ここにご紹介する手帳交付申請書の存在を知ったこととです。この申請書はついに提出されませんでした。上野さんの胸のうちを去来した思いはなんだったでしょうか。（鈴木正）

その後、父は心臓病で入院を繰り返し、平成11年84才で亡くなりました。あの時、もつともつと、いろんなことを話し合っておきたかつた、と思えました。造船に関わつた父は、一発のピカでこんなにも多くの犠牲が出た事、戦争に関わることの重さを心のなかに秘めて、戦後、川南造船所をやめ、建築設計測量の

↑被爆者健康手帳交付申請書 爆心地方面に立ち入った時の状況

↑被爆者健康手帳交付申請書 長崎市内で被爆した時の状況

↑被爆者健康手帳交付申請が遅れた理由書

↑被爆者健康手帳交付申請書 爆心地方面に立ち入った時の状況

被爆者健康手帳交付申請書

長崎市長 青山 智佳子

1 被爆当時の状況

被爆日時	昭和30年5月9日	被爆場所	長崎市東区
被爆時年齢	1歳10か月	被爆時職業	無職
被爆時居住地	長崎市東区	被爆時家族構成	父、母、兄、弟

2 被爆後の状況

被爆後、父は心臓病で入院を繰り返し、平成11年84才で亡くなりました。母は終戦から14年後、42歳で亡くなりました。

↑被爆者健康手帳交付申請書 上野兼雄さんが平成5年5月に記入されましたが、提出されないうちに亡くなられました。